



9月の園だより

社会福祉法人 であいの里 さやま保育園
2026年9月1日発行

保育目標 報謝 ありがとう

- ・だれにでも、進んで「ありがとう」をいいます。
- ・お友だちを励ましたり、協力したり、運動を楽しむ。



【法話】

【お彼岸】

今年の夏も猛暑日が続き、その上熊本では地震災害が、千葉や北陸では豪雨災害が発生し、避難生活を余儀なくされている皆様、不安の中におられる皆様におかれましては、一刻も早く平穏な日々をお過ごしになれますようお願いばかりです。

お彼岸は、「暑さ寒さも彼岸まで」と、昔から言われるように、春と秋の年に2回、一週間ずつあります。その一週間の真ん中の日が、彼岸の中日で、現在では、春分の日、秋分の日という祝日になっています。ではなぜ祝日なのでしょう？ 昼と夜の長さが同じだから……太陽が真東から昇るから……？ 「国民の祝日に関する法律」には、秋分の日「祖先を敬い、亡くなった人をしのぶ」とあります。昔からの仏教行事であるお彼岸の意義をくんで、祝日に定められているようです。

今の私のいのちがあるのは、数え切れない多くのご先祖の方々がおられたからです。その多くの方々の大きなお徳を偲ぶ中で、私自身のいのちを考える日として定められているのが、お彼岸なのです。 日頃は、^か彼の岸（真実の世界）

に目をそむけて、此の岸（迷いの世界）に生きている私達ですが、お彼岸に際し、少しでも私のいのちについて、真正面から考えてみたいものです。私自身の、いのちが、どこから来て、どこに行くのか、真剣に考えてみましょう。私の頭では、答えは出ませんし、仏教・仏さまの教えに尋ねる・御聴聞する以外、答えは見つかりません。俱会一処、また遇える世界に向かって、ともに生きて往きたいと思ひます。合掌



今月の行事予定

- 1・15日 礼拝 11日 避難訓練(通報/消火)
- 7～11日 参観日ウィーク(あひる・ひよこ)
- 発育測定 (14日ぞうきりん 15日あひるひよこ 16日うさぎりす) 16日 フラダンス
- 16日クッキー作り 17日 誕生会(そうめん流し)
- 28日 口座引落 30日 ピアノコンサート
- 30日まで わくきら!夏あそび(ぞうきりん)



【今みんなに伝えたいこと ～今こそ遊びの創造共育～】

積み木の理論や遊び方を学びたくて和久先生の講座に参加したことがありました。そこで先生は、「積み木は宇宙だよ。」でも、まずは、「楽しさを体で感じなさい、夢中になる、もっとしたい、面白いと思えるまで遊ばなさい。」「『つながるころ、つながるかたち、つながるいのち』を体で感じることだね!」と、私に直接仰いました。

和久先生は、200 年前に幼児教育の父と言われたフレーベルの理論「さあ、私たちの子どもに生きようではないか!」子どもに何かをしてあげるよりも、子どもと同じ視点で共に生きよう!という考えを原点とされています。子どもが幸せになる事、それは、自分のやりたいことができる事、創造力があるという事であると、『創造共育』を掲げて最良の『童具』を探り、創り、伝え続け、今年2月に83歳でご逝去されました。

童謡、童話、童具、どれも子どもの精神を育む大切な文化ですが、中でも遊びながら自発的に学びを深める用品用具・おもちゃの事を『童具』と名付け、特に積み木は水や砂と同じで創作意欲を高める童具です。子どもはそんな創作する遊びの中でこそ人間の本质・心の内側を表現し、そのどれもがみんな違ってみんないい世界感で、その子をそのまま認められる安心感の中で遊び続けることができる。楽しさが増し、失敗しても、もっと挑戦したい気持ちが芽生え、「ああしたい、こうしたい、なぜだろう」の試行錯誤を繰り返す。そこにはAIの力には及ばない文字化できない情報や五感で得た体験も含まれ、子どもに必要な人間力が育っていく。友だちと協働しながら様々に繋がり、生かされている喜びを味わうこともできる。

8月下旬、和久先生を語る創造共育全国大会が催されました。

子どもと遊びなさい。子どもの素晴らしさを知らなさい。子育ては目の前の子どもが主体なんだ。お父さんお母さん、先生たちが大好きだよ、子どもが楽しいと感じるのは、大好きな周りにいる大人が楽しいと感じている時、一緒に遊んでくれる時だよ。遊び方がわからなかったら、積み木があるよ、心がつながるよ、子どもが遊び方教えてくれるから。

子どもの方が純粹で、大人より人間らしい心を持っている。今だけだよ。私たち大人は縁あって、こんな素敵な子ども達の側で、素敵な瞬間に出会っている。それなのに、知らず知らずの間に自分の価値観で子どもを見て、子どものためと思い意見をしてしまうが、その事ほど子どもにとって苦しいことはない。大人も子どもだった。やらされることより、やりたいと思ったことの方が楽しかったよね。わかっているのに手を出し、口を出してしまう。もう少し子どもを信じて見守ってあげよう。……って声が聞こえてきました。

